

## 「希望を分かち合って」

目白学園女子短期大学教授 真仁田 昭

「おれだってまだ死にたくない。だけど、このままじゃ『生きジゴク』になっちゃうよ。(以下略)」

という遺書を残して中学2年生の鹿川裕史君は自殺する。1986年2月のことであるが、深刻な「いじめ」問題として、当時非常に社会の注目を集めた事件である。

この遺書にある「生き地獄」という言葉が忘れられない。そして、その言葉の彼における意味は何かと思うことがある。恐らくは、どれほど親や先生が心配し応援してくれても、自分がどんなに努力を傾けても、この辛い状況から抜け出すのは到底無理という、先々に対する暗澹たる思いが深くあったからに違いあるまい。「いじめ」がどれほど耐え難いものであっても、やがての終息その故の明るさが確信できたなら、この「生き地獄」という言葉は生まれなかったことであろう。

末期ガンの患者においても、その治癒に一縷の望みを抱いている限り、医師と協力して病と戦うこともできるし、容易にその命を終えることもない。患者が希望を口にしなくなった時その死期は近い、E・キューブラー・ロスという。病の篤い患者においても、

その生を支えるものは希望なのだ。

児童生徒においてもそのことは変わらない。彼を取り巻くものの温かさ、自分の努力、そして時の流れは、必ず明るさをもたらすという確信は、その生にとって不可欠のものであろう。児童生徒も人間として、よりよい変化を求め、その到来を信じ、その変化を実感し味わい楽しむという経過の中に、その生の安らぎと張り合いがあるといえるのだ。

子どもの遊びの中に、変身という変化を求め、それを楽しむことを軸として展開されるものがある。童話の一つの主題は変身であり、TV番組の「仮面ライダー」も変身する。それらをまねた変身ごっこもよく見られるが、児童生徒の大事な変身の一つは、「分かるようになった。できるようになった。今までとは違ったぞ。」という変身なのである。

児童生徒において多くの問題とされる行動がある。その背景に対する吟味もさまざまであるが、その一つに、この変化の可能性に対する失望という問題がありはしないか。上述のロスは、「医師は患者と希望を分かち合わねば」という。その言葉のもつ重みは、教育にかかわる者にとっても同様であろう。

## 中学生の学校生活における不安・悩みに関する調査研究

広島市教育センター指導主事 松田了二

学校生活での不安・悩みを自分では解決しきれず、学校不適應の状態になる生徒が増加している。本研究では、広島市立中学校534名の生徒を対象に、不適應行動に対して予防的な援助・指導の効果を高めるための基礎的資料を得るための調査を行った。ここでは、学校生活において、生徒がもつ不安・悩みの実態と教師がとらえている生徒の不安・悩みの実態について述べる。

### 1 生徒の不安・悩み

「学級」「学習」「先生」「友達」「クラブ活動」「進路」「学校」の7群について各5項目の質問を設定し、回答を得点化し(2点、1点、0点)項目ごとの平均点を求めた。表1に平均点の高い10項目を示す。

表1 生徒がもつ不安・悩みの項目(点)

①希望する高校に入れるかどうか気になる	1.54
②将来どこの高校に行ったらよいか気になる	1.35
③自分の学級は授業中さわがしいと思う	1.33
④自分の学級は勝手な行動をとる人がいると思う	1.32
⑤今のままでは学校の成績は伸びないと思う	1.25
⑥受験とか進路とか言われるとつらい	1.21
⑦勉強をやる気がしなくてだめだと思う	1.04
⑧勉強についていけなくなると思う	0.91
⑨先生は自分をよい印象で見えていないと思う	0.89
⑩友達がいやなことを言っていると思う	0.89

高校への進学、成績、勉強の項目で平均点が高い。生徒は、希望する進路の実現に、学習内容の理解やよい成績が必要と思っている。また、先生や友達など周囲の人から好意的に受け止められていないと思っている。自分への評価を気にしていることがうかがえる。

### 2 学年間で顕著に表れた生徒の不安・悩み

図1に、平均点の差が学年間で顕著なものを示した。第1学年は「学級」である。学級内の対人関係に慣れないでいるか、学級集団への高い理想を抱いているためではないかと考えられる。第2学年は、「進路」「先生」である。進路への不安・悩みとともに、自我の

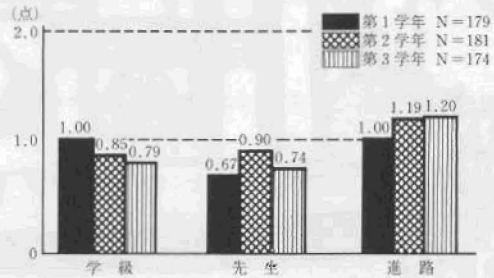


図1 「学級」「先生」「進路」の学年別平均点

目覚めから生じる大人への反抗や批判が、身近な大人である教師に向けて表れていると思われる。第3学年は、「進路」である。進路選択が目前にせまり、あせりとともに不安・悩みをもちやすくなっていると思われる。

### 3 教師がとらえた生徒の不安・悩み

表2から、教師は、生徒の不安・悩みは「進路」「友達」「学習」に多いととらえていることが分かる。表2 教師がとらえた生徒の不安・悩み

これは、教師が生徒から受ける相談内容(図2)から判断したものと思われる。

	1学年		2学年		3学年	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1位	友達	友達	学習	友達	進路	進路
2位	学習	学習	友達	学習	学習	学習
3位	進路	進路	進路	進路	友達	友達

しかし、生徒の不安・悩みは、



図2 生徒の相談内容

「進路」「学習」「学級」「先生」のことが多く、「友達」のことは少ない。

生徒は、「進路」「学習」「学級」「先生」のことで不安・悩みをもちやすく、周囲の人のことを気にしている。また、教師がとらえている生徒の不安・悩みと生徒の実態には違いがある。生徒がもつ不安・悩みに対して、教師は、生徒の表面的な言動にとらわれず、その背後にある気持ちを理解するようなかかわり方が大切であると考えられる。

## 小学校理科におけるカタバミの教材化に関する研究

広島市教育センター指導主事 越智文嗣

小学校理科の学習において、「児童にもっと身近な地域や学校の自然環境等に目を向けさせたい。また、自然の事物・現象に対する興味・関心をもたせたい。そして、主体的で楽しい学習活動をさせたい。」という目的からこの研究に取り組んだ。

これらの目的を達成するための一工夫として、カタバミを教材化し、学習指導での実践を通して、その教材としての有効性を探ってみた。

具体的な内容としては、小学校第4学年理科の「生物とその環境」区分における学習内容である「(1) 身近な植物を探したり育てたりして、植物の運動や成長と環境とのかかわりを調べることができるようにする。

ア 植物の運動や成長は、天気や時刻などによって違いがあること。」の指導に当たって、カタバミを取り上げ、その教材化を図った。

カタバミの教材化を進めるに当たっては、図1に示すように、①目標及び内容の分析、②児童の実態把握、③カタバミに関する研究を行い、学習指導での実践を試みた。

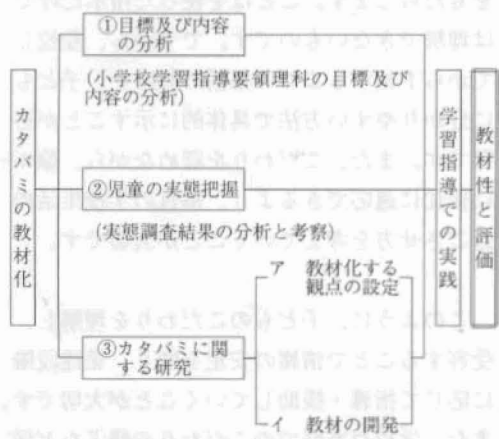


図1 カタバミの教材化を進めるために

学習指導においては、カタバミの教材としての有効性を探るため、次に示す①～④の観点を設定した。

- ① カタバミは、学習内容に適合し、目標を達成することができるか。
- ② カタバミは、児童の身の回りにおいて、入手が容易であり、親しみやすいか。
- ③ カタバミは、栽培しやすく、管理が容易であるか。
- ④ カタバミは、扱いや観察が第4学年児童の発達段階からみて適切であるか。

これらの観点に基づいて検証した結果、次のようなことを明らかにすることができた。

- カタバミの運動や成長にかかわる特性は、学習内容に適合し、その目標を達成することができる。
- カタバミは、広島市全地域に見られ、児童にとって、身近な植物であり、探したり育てたりすることが容易にできて親しみやすい。
- カタバミは、他の植物素材に比べ開花期が長いことから、花と葉の開閉運動を同時に観察することができ、栽培しやすく管理も容易である。
- 児童の継続観察記録を分析した結果、カタバミの扱いや観察が第4学年児童にとって可能である。

本研究の結果から、カタバミを教材として用いることにより、植物も人や動物と同じように「運動する」ということに対して、児童の興味・関心を促し、主体的で楽しい学習活動が期待できると考える。



— 教育相談室から —

Q

おこたえします

A

— こだわりが強い子ども —

Q 小学校2年生の子どもです。蛇口から水が流れるのをずっと見つめていたり、水を流しながらいつまでも手を洗い続けていたりします。やめさせようと注意すると、ひどく泣き叫びます。また、学校でのその日の予定が変わることをとてもいやがり、何度も理由を聞いてきます。これからどのように指導すればよいでしょうか。

A こだわりは、カレンダーやマーク、数字、道順や物の配列などさまざまなことについて見られます。それは、物の順序や回りの物の配置の仕方にこだわったり、いつも同じ状態になっていないと気がすまなかったりということが極端に見られる状態といえます。こだわりをやめさせようとすると、ひどく混乱してこだわりを強めることになります。

このような子どもは、ある特定の対象に向けていつも同じであることを要求し変化を嫌っているのです。変化することに対し、とても不安感をもつといえます。知覚したものを理解するとき、理解や安心しやすいものだけを受け入れようとする、それがこだわりとなっていると考えられます。具体的には、次のような対応が必要となってきます。

1 こだわりの状態を理解する

こだわりをなくさせようと、むやみに禁止したり叱ったりすると、ますます子どもは混乱してきます。子どもの行動が気になってもあせらないでその様子を詳しく観察し、どんな時に起こるのか、その行動の背後にあるものは何かなどを察し、落ち着いてかかわることが大切です。

2 要求を受け止める

回りからの刺激が強すぎると、情緒が不安定な状態になり、こだわりが強まることがあります。さまざまな活動をする中で、子どもからの要求を受け止めながら、目的を遂げるための手段や方法を子どもとともに見つけていくことが必要です。そのことにより、要求を満たすことができ、情緒が安定した状態になります。

3 接触を絶やさないようにする

日常生活の中で、子どもとの人間関係を深めておくことが必要です。何かにこだわって次の行動に移ることが難しい場合には、無理にひっぱるのではなく、話しかけたり体に触れたりしながら、子どもとともに行動する姿勢が大切です。お互いの信頼関係の成立は、日常の子どもとのかかわりを通して生まれてくるのです。

4 生活の順序を分かりやすく示す

予定の急な変更は、子どもにとって不安感をもたらします。ことばを使った指示だけでは理解できないものです。ですから、登校してから下校するまでの生活の順序を、子どもに分かりやすい方法で具体的に示すことが必要です。また、こだわりを認めながら、徐々に変化に適應できるよう、毎日の学校生活の過ごしさせ方を考えていくことが大切です。

このように、子どものこだわりを理解し、受容することで情緒の安定を図り、発達段階に応じて指導・援助していくことが大切です。また、学校や家庭でのこだわりの様子など保護者と情報交換を行い、連携を密にすることで信頼関係を深めたいものです。

広島市教育センター指導主事 中尾秀行

教育実践基礎講座(8)

技術・家庭科教育における「情報基礎」領域について

広島市教育センター指導主事 江田 英俊

平成5年度より広島市立中学校にコンピュータが整備され、コンピュータを利用した教育が始まります。

技術・家庭科の「情報基礎」領域においては、コンピュータの仕組み、コンピュータの基本操作、簡単なプログラムの作成、コンピュータの活用、日常生活や産業の中でのコンピュータの役割と影響等について指導することが求められています。

このように、コンピュータの操作等を通して、情報を適切に活用する能力を育成することが技術・家庭科に位置付けられたことから、これまで以上にコンピュータの教育利用についての研究を深める必要が生じてきました。

コンピュータの教育利用に当たり、広島市立中学校3校を対象として、平成元年6月にコンピュータにかかわる生徒の実態調査を実施しました。

この調査結果によると、約71%の生徒が頻度の差はあれ、コンピュータの使用経験を持っており(図1)、また、約73%の生徒が友人宅や自宅で利用していることが分かります(図2)。このような生徒の実態から、コンピュータは生徒にとって、すでに特別な存在ではなく、日常生活の中で身近なものになってきているように思われます。

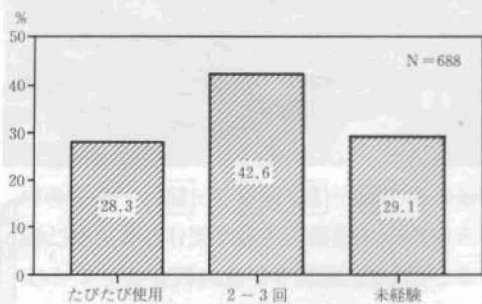


図1 コンピュータの使用経験

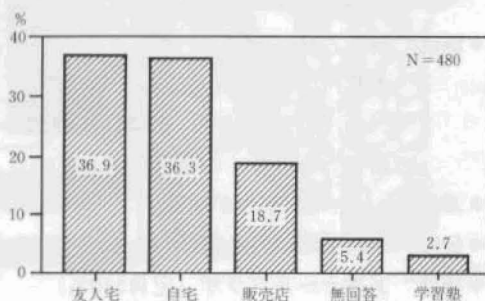


図2 コンピュータの利用場所

さらに、コンピュータゲームや文書作成、図形処理等でコンピュータを利用しています(図3)。また、プログラムの作成を行った生徒も約18%おり、コンピュータを遊びで使用するだけではなく、コンピュータのもつさまざまな機能を生かした利用の仕方をしていきます。

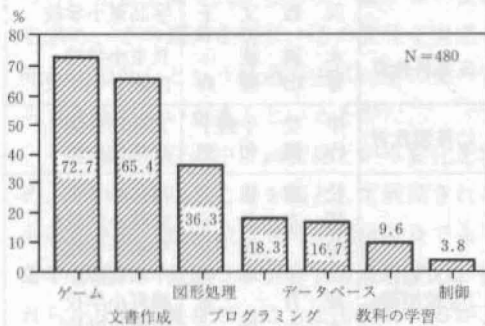


図3 コンピュータの利用の仕方(複数回答)

これからは、教師自身もコンピュータを適切に操作できる能力を身に付けて生徒の指導に当たるとともに、技術・家庭科等の教科指導だけでなく、課外活動や教育情報の処理等でコンピュータを効果的に利用していくことが必要であると考えます。

## 教育センターひろば

### 教養講座へどうぞ

- \*講師 石本 美由起氏  
大竹市出身、作家  
「悲しい酒」、「矢切り  
の渡し」など多くの歌を作詩している。
- \*演題 「人生わが友わが演歌」
- \*日時 平成4年12月3日(木)14:30~
- \*場所 アステールプラザ(定員540名)
- \*対象 教職員、社会教育関係職員



### 平成4年度研究協力員

教育センターでは教育研究を進めるに当たって、次の先生方に研究協力員をお願いしています。

#### 平成4年度研究協力員

研究領域	研究協力員氏名	所属校(園)名
生活科教育	富村 ひとみ	長東西小学校
	山幸子	五日市小学校
音楽科教育	永岡 敏彦	長東小学校
	藤山 勝典	南観音小学校
幼稚園教育	甲斐 千鶴子	大町幼稚園
	作間 和恵	真亀幼稚園
教育相談 (登校拒否)	松前 朋貴	梅林小学校
	岩本 恭子	青崎小学校
	登山 民夫	牛田小学校
	山下 珠美	牛田新町小学校
	望月 真一	鞆町小学校
	水ノ上 俊一	安東小学校
	須本 良夫	五日市南小学校
学習指導 (環境教育)	吉岡 美佳	大町小学校
	松田 和彦	清和中学校
	瀧口 典子	伴中学校
	澤原 麻里子	温品中学校
	森原 信吉	宇品中学校
	林政 蔵	安西中学校
	海浦 利範	牛田中学校
殿垣内 実造	落合中学校	
野村 裕造	翠町中学校	

表紙絵 広島市立青崎小学校長 澤井 隆三  
題 字 広島市立広島商業高等学校教諭 進藤 正則

### 教員特別研修生

今年度後期は次の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

- \*生活科教育：土井延久教諭(安北小)  
研修題目：児童の創造性を育てる生活科学習指導法の研究
- \*生徒指導：大平秀樹教諭(久地南小)  
研修題目：教師と児童の好ましい人間関係を育てる生徒指導の研究
- \*音楽科教育：小笠原陽子教諭(温品中)  
研修題目：幅広い音楽観を育てる鑑賞指導の工夫
- \*技術・家庭科教育：遠藤佳男教諭(五日市観音中)  
研修題目：「情報基礎」領域における題材開発に関する研究
- \*英語科教育：廣谷明人教諭(吉島中)  
研修題目：英語科における評価に関する基礎的研究
- \*理科教育：河野 毅教諭(沼田高)  
研修題目：地域の自然環境を取り入れた理科指導の工夫

### 研修講座スナップ

中学校数学科指導講座(数学教育でのコンピュータの活用)



### 編集後記

今年も後1か月を残すだけとなりました。今回は、平成3年度の教育センターの研究を取り上げました。今後の指導の充実にご活用ください。